

浮かれ騒ぎの共犯関係

1. オリンピックの日程を決める

3月25日には、「今後4週間かけて、オリンピックを延期するかどうか、延期の場合はいつにするかを決める」と言っていた安倍首相が、26日には「1年後の来年夏に延期することに決めた」と発表した。28日にはオリンピック組織委員会会長の森喜朗元首相が「来年夏の日程を1日刻みで決める」とテレビインタビューで語っていた。

来年夏にコロナウィルスの流行が抑えられると、現首相と元首相が信じているのだろうか？ 巷の人びとに、「この感染症が1年以内に収まって、世界中から人々を呼び込める状態になるだろうか？」と質問すれば、90%が「No」と答えるだろう。では、二人の首相や並み居る閣僚、都知事や大勢の運営関係者がそう信じているのだろうか？ たまたま、『朝日新聞』のオピニオン&フォーラム「延期劇が映したひずみ」という記事に、ライターの武田砂鉄さんのつぎの談話が載っていた。

政治家だけではありません。1週間ほど前、JOCの理事の一人がこん夏の五輪開催を延期すべきだと主張したら、山下泰裕会長は「みんなで力を尽くしていこうというときに、そういう発言をするのは極めて残念」と批判しました。予定通り開催すべき理由を説明するのではなく、持ち出されたのは「みんなの気持ち」でした。¹

「来年7月にオリンピックができる状況までパンデミックが沈静化するでしょうか？」と聞けば、個人として、元首相、現首相、都知事、日本オリンピック委員長のだれもが「だめだろうね」というのではなかろうか。森会長は3月31日の記者の質問に「神頼みだ」と答えた。肩書がついていて、目の前に大勢の記者たちやテレビカメラが並んでいると、自分でも責任の持てない大言壮語をいうと人気が出るようである。過半数の市民はこういう政治家を支持している。経済界もこういう政治家たちが自分たちの望むバラマキを見境なくやってくれることを知っている。見え透いた嘘がばれる日が来ても、責任を追及されることがないことをこれらの政治家たちはよく知っている。

2. スペイン風邪の継続規問

今年2月初旬は、感染者がダイヤモンド・プリンセス号乗客に集中し、水際対策が成功している、さすが日本は緻密だ、と思わせるような政府発表と報道が主流であった。2月後半になっても、「だから、下手に検査数を増やせばそのことがかえって感染者数を増やすことになる」といった政府関係者の意見が支配的であった。しかし、3月後半になると、感染経路のたどれない感染者が急増する勢いになり、防御方法はすべての国民に対する移動・接触の自粛要請以外になくなった。そうすると、感染者の拡大と終息のトレンドは、過去の大規模パンデミックである「スペイン風邪」をなぞることになる。100

¹ 『「気持ちで実現」続ける日本』『朝日新聞』2020年3月28日

年前のウィルス性パンデミックは、1918年1月から1920年12月までの3年間続き、当時の世界人口の1/4が感染し、死者は1,700万人から5,000万人と推計されている（5億人という説もある）²。今日はさらにグローバル化が進んでいるから、ドイツやイギリスの首相が国内人口の60%が感染するとした発言は妥当であろう。ところで、脅威が去って国立競技場に6万人の観客が集まって大歓声を上げて差し支えない状態とはどういう条件だろうか。ワクチン製剤が町の薬局に行き渡り、体調不良を感じたら「くしゃみ3回〇〇何錠」というように自分で飲んで治る自信ができる状態になったときであろう。ワクチンが大量にできるには1年くらいはかかるそうである。他方、感染者数の増大速度を医療崩壊が起こらないように抑制して行けば抗体を持つ人が十分な数に達するには2~3年間はかかるであろう。3月31日には来年7月23日にオリンピックの開会式を開催すると、具体的な日程まで発表されたが、その開き直りこそ、ポピュリズムにおける政治家と民衆の共犯関係である。

3. 天下御免の浮かれ騒ぎ

延期が決まった後も、テレビは相変わらずオリンピック・パラリンピックの代表選手や聖火の話題にパンデミックと同じ時間を割いている。市民たちはいずれがっかりすることが分かっている、それが今でなければ当分陶酔を継続できる。いやなことは後回しにしてくれる人が良い人である。先へ行って、空騒ぎをできないと申し渡したとき、人びとは政治家だけを責めるような薄情なことをしない。全員が総懺悔して、責任などと野暮なことを言わない。

2013年9月24日に、私は外国特派員協会の記者会見に臨み、グレゴリー・ヤツコさん、トーゲン・ジョンソンさんとともに福島事故の後始末についてブリーフィングした。同月7日に安倍首相がブエノスアイレスにおけるオリンピック招致演説で「汚染水はアンダーコントロールである」といった直後だったので、記者たちの質問は「安倍首相の説明は本当か？」という点に集中した。私は「嘘です」と何度も答えた。質問者も分かっているにやにやしながら訊いていたフシもあったのだが。

大人たちがみな互いの気持ちを忖度して、「王様のおべはきれいですね」と口をそろえているとき、「大きまは裸だ」というのは、子供と外国人のようである。

ともかく、大規模な原発事故と大勢の被災者に向き合うことを避けて、お祭り騒ぎで気晴らしさせてくれればよい。その音頭を偉い人がとってくれれば、市民は天下御免で浮かれ騒ぎができる。そのためには、哀しみや自責が深いほど、度外れの陶酔を提供してくれれば効果が大きい。理屈通りだと、身の回りをいくら工夫しても、自力では大した境遇の好転が望めない。偉い人が音頭を取ってくれれば手放しで浮かれることができる。しかも古代ローマのように政治家が安い費用で見世物を主催してくれればそれが最高だ。

4. 嘘の共鳴

指導者と市民大衆とが、お互いに嘘をついていることを知りながら嘘を述べている共鳴関係がファシズムの基盤なのだ³。アジア・太平洋戦争が終わったとき、昭和天皇、東條首相を筆頭に、指導的地

² Wikipedia「スペインかぜ」

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%B9%E3%83%9A%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%81%8B%E3%81%9C>

³ ナチスのユダヤ人虐殺についての同様の教訓については、ブリーモ・レーヴィ、竹山博英訳『溺れる者と救われるもの』朝日文庫、

位にあった人たちの誰もが自分は責任者ではない、といったことを東京裁判のキーナン検事が述べている⁴。

市民の多数は昭和天皇の退位を求めなかった。A級戦犯の岸伸介を首相に選んだ。「ドンマイ、ドンマイ、楽しみは無くならない」と言っておれば、彼らは安泰なのだ。現在のヨーロッパの首相たちが「みなさん大変だ。協力してください」と言っているのとは正反対である。

5. バラマキの次に来るもの

アメリカではトランプ大統領が 220 兆円の緊急コロナ対策予算を発表した。日本では安倍首相が、56 兆円余の緊急対策を発表した（29 日）。4 月 1 日からの新年度予算が 102 兆円で国債発行額は 32.5 兆円を予定している。他方、人の移動が制限されたために、世界の経済活動は麻痺している。つまり、どの国も貧乏になりつつある。貧乏が昂進するほど、現実離れした夢が膨らんでくる。夢には清く正しい希望だけではなく、他の人を支配して得しようというよこしまな夢も噴出する。

1 世紀前の 1929 年世界大恐慌があり、失業率が上がり、ブロック経済化、植民地争奪戦、そして第 2 次世界大戦に突入した。それぞれの国にナショナリズム、ファシズムが猖獗を極める。

幻想を排して、冷静に市民の民主主義を守っていかなければならない。

2019 年、クリストファー・ブラウニング、谷喬夫訳『普通の人びと』ちくま学芸文庫、増補版 2019 年

⁴ 丸山眞男『現代政治の思想と行動』未来社、新装版 2006 年。小熊英二『民主と愛国』新曜社、2002 年